



24日 土曜 8:00 より、

親子奉仕作業 を行います。

ご参加・ご協力を お待ちします。

荒天の場合は、校内での作業（ガラス飛散防止フィルムはり）を計画しています。

24日 土曜日 午前8時より、親子奉仕作業を行います。校庭の除草と溝さらえを計画しています。昨年度は、とても暑い中でしたが、多くの方に参加いただけました。ありがとうございました。今回も多くの方が参加して下さることを願っています。

* 外での活動ができない場合は、メール配信で連絡をさせていただきます。



- * 体育館前にお集まりください（出席表が用意してあります）。
- * 夏休み前に事前の出欠票を提出していただきました。欠席予定で提出された方も、ご都合がつけば来ていただけたらうれしいです。
- * 草抜きや草刈りの道具があればお持ちいただけたらうれしいです。
- * 暑い時期です。お茶やタオル・ぼうし等をお持ちください。



年に1度の会です。ご参加・ご協力をお願いします。



夏 休みが始まって1か月が過ぎました。7月中は不安定な天候が続き、残念ながら、学校のプール開放も3回しか行えませんでした。8月に入ってからは、毎日35度を超えるような猛暑日が続きました。さまざまな思い出はできたけれど、夏バテ気味かもしれません。

子 どもたちにとっては、残り2週間が2学期に向けての大切な時期。子どもは、宿題がたまって気持ちはあせっているのに、夜ふかしと朝ねぼうの生活パターンから抜け出せないまま、「あしたからはがんばろう」と自分に言い聞かせながら、結局、中途半端な気持ちのまま始業式をむかえていた。そんな経験をした方もあると思います。



お 子さんが、この後「あと2週間しかない」とあせったり、あきらめたりしないよう、「まだ2週間もある」という余裕を持って、残りの日数、さまざまなことに取り組みせたらどうでしょう。満足した夏休みを過ごせたことが、2学期を元気に過ごすパワーになると思います。

ご案内

子どもたちの健やかな成長を願うつどい

8月31日 土曜 13時30分 受付 瀬戸蔵 つばきホール



こどもの本の専門店 メルヘンハウス代表

講師 三輪 哲 (みわてつ) 氏

演題 こどもと本と大人

- 子どもの心を育てる読書 -



夏 休みに入る前にも一度ご案内をしました。「第58回 瀬戸 母と女性教師の会」の再度のご案内です。

× メルヘンハウスという本屋さんの名前を聞かれたことがあるかもしれません。また、講師三輪哲さんの名前を知ってみえる方もあるかもしれません。

インターネットで【三輪哲 メルヘンハウス】を検索すると、「メルヘンハウス代表 三輪哲さん スペシャルインタビュー」が一番にでてきました。そこにくわしいプロフィールと「絵本は日常から非日常へと旅するパスポート」と題してのすてきなお話がのっていました。今回は、直接、ご本人からのお話がきけます。行って損することはないと思います。

土 曜日の午後からの会です。おいそがしいとは思いますが、近くの方と誘い合わせて出席されたらどうでしょう。きっと子育てのヒントになることが見つかると思います。

お車でお越しの方には、瀬戸蔵・パルティ・宮前モールの無料駐車チケット（3時間分無料）を配布してもらえます。

三輪 哲 氏 プロフィール

1944年、静岡県生まれ。南山大学経済学部経済学科卒業。機械関係商社勤務を経て、1970年、子どもの本の勉強のため渡米。1973年に日本初となる子どもの本専門店「メルヘンハウス」を名古屋でスタートさせる。現在、株式会社メルヘンハウス代表取締役、日本児童図書評議会（JBBY）会員、日本子どもの本研究会会員、子どもの本「WAVEの会」会員として活動。絵本作家との親交も深い。

以下は、インタビュー「絵本は、日常から非日常へと旅するパスポート」の抜粋です。

僕はもともと絵が好きで、自分でも趣味で描いてたんですけど、あるとき一冊の絵本と出会ったんですね。チャールズ・キーピングの『ジョセフのにわ』という絵本です。絶版で今ではもう手に入らないのですが、とても芸術性の高くて、衝撃を受けました。これが子どもの本なのか、と。

それを機に絵本を集めるようになったんですが、本屋に行ってもほしい絵本がない。店頭にあるのは売れるものばかりで、僕が読みたい絵本は注文して何週間も待たないといけなかった。これでは子どもはいい本とめぐ

り会えないんじゃないかそんな思いをずっと抱えていたんです。アメリカに渡って2年間、自分なりに子どもの本の勉強をして、帰国後、子どもの本の専門店「メルヘンハウス」をオープンしたんです。

採算なんて考えずに勢いで始めてしまったので、はじめは本当に大変でしたよ。でも、やめようと思ったことはありませんでした。楽しさの方が強かったから。何が楽しいかって、子どもが絵本の本当のおもしろさを教えてくれるんです。

たとえば、『しろくまちゃんのほっとけーき』（こくま社）。「ぼ

たあん だろだろ ぴちぴちぴち ぷつぷつ やけたかな？」……それを見て、本をなめる子がいるんですよ。絵本の中のホットケーキをひとつひとつ、印刷がはげちゃうぐらいになめるんです。そんなこと、大人は想像もつかないですよ。

子どもの本の店をやっていると、毎日のように、ドラマがあるんです。そのおもしろさがあったから、やめられなかったんでしょうね。オープンから38年。赤ちゃんとして来ていた子が、今はお父さんお母さんになって、自分の子どもを連れてくるようになりました。